

teamstudio®

## お客様情報

### チームスタジオジャパン株式会社

●本社所在地  
東京都港区虎ノ門 5-12-13  
大手町建物神谷町ビルディング2F  
<http://www.teamstudio.com/jp/home/>

IBM Notes/Dominoの開発および管理者向けソリューションを65カ国以上に提供しているTEAMSTUDIOは、XPagesやモバイル化など最新技術にも豊富なナレッジを有する。チームスタジオジャパンはその日本法人として、IBM Notesのアプリケーション運用・開発用ツール群や、モバイルデバイスでの業務アプリケーションの活用を実現するプラットフォーム「Unplugged」を日本市場に展開。あわせて導入・バージョンアップ計画・作業、コンサルティング・サービス、ソリューション・パッケージ開発・販売を手がけている。

# チームスタジオジャパン株式会社

IBM SmarterCloud for Social Businessを  
活用してWebセミナーを開催  
参加者数の増加とともに  
イベント運営の効率化を実現

チームスタジオジャパン株式会社(以下、チームスタジオジャパン)は、IBM Notes/Dominoのアプリケーション開発に携わるエンジニア向けのイベント「XPagesDay 2013」を開催し、成功裏に終了しました。初開催の昨年よりも、少しでも多くの参加を得てコミュニティを盛り上げようと、今回はセッション数を増やすと同時に、会場での講演に加えてオンライン形式のWebセミナーにも挑戦。IBM SmarterCloud for Social Business(以下、SCSB)を活用してWebセミナーを実施した結果、遠隔地からの参加者が増加するとともに、会場や運営スタッフに費やしていたコストが削減でき、短期間で効率よく、より大きなイベントを開催することができました。

## 気軽に出張できないエンジニアの 期待に応えるセミナーの実現を目指して

2012年5月、XPagesコミュニティによるXPagesのためのイベント「XPagesDay」が初めて開催されました。

XPagesとは、IBM Notes/Domino 8.5から採用された、Webテクノロジーを用いた新たなアプリケーション開発技術です。近年では、スマートフォンやタブレット向けのモバイル・アプリケーション開発、ソーシャル・ビジネス・ソフトウェア開発のほか、ビジネス・プロセス変革を推進していくテクノロジーとしても注目されるようになりました。XPagesDayは、このXPagesについて、「開発にチャレンジしたい」「最新動向を知りたい」「ビジネスの広がりを知りたい」といったエンジニアの声に応え、啓蒙・普及を図っていくことを目的としたイベントです。

主催は、IBM Notes/Dominoの開発者向けツールなどを手掛けているソフトウェア会社の日本法人であるチームスタジオジャパン。同社セールスディレクターの林ゆうこ氏は、このイベントの狙いを次のように話します。

「もともとこのイベントを立ち上げた当社の思いは、IBM Notes/Dominoの開発に携わるエンジニアの横のつながりを活性化したいということにあります。なかでもXPagesは旬のテーマとして関心が高く、エンジニア同士で事例を発表したり、情報を集めたりできる場を作りたいと、



チームスタジオジャパン株式会社  
セールスディレクター  
林ゆうこ氏

## IBMお客様導入事例

イベント開催に至りました。

参加者は、全セッションの延べ人数で約80名。初回としては、まずまずの数が集まりましたが、課題も見えてきたと林氏は明かします。

「やはり北海道や九州、四国といった遠隔地から、泊まりがけで東京のイベントに参加するのは容易ではありません。特にクリティカルなシステムの開発にあたっているエンジニアは、トラブルが起こった際にすぐに駆け付けて対応しなければならないといった事情もあり、気軽に出張できない人がたくさんいるのです」

また、第1回XPagesDayでは、1日の中で2つのトラックを並行して実施したため、「希望したセッションに参加できなかった(裏セッションを聴けなかった)」という不満が、参加者の間にも生じていました。

そこで2013年秋に向けて第2回XPagesDayを企画するにあたり、思い立ったのがWebセミナー形式による開催です。

「ストーリーングによる映像配信など、現在ではWebセミナーも一般的になっており、地方在住のエンジニアや多忙なエンジニアも、自席からであれば気軽に参加していただくことができます。せっかくやるなら開催日数やコマ数も増やすとともに、聴きたいセッションに無理なく参加できるように上手くスケジュールをコントロールし、昨年よりも充実したイベントに盛り上げていこうと社内の意気も高まっていきました」。

問題は、この構想を具体化する仕組みづくりでした。今回開催しようとしているイベントは登録制で実施するもので、事前の参加申し込みの受け付けからアカウントの発行、登録者の管理まで、事務局としてのさまざまな作業が発生します。チームスタジオジャパンには、同社グローバル標準のWeb会議支援ツールが導入

されており、操作にも熟練していました。しかし、契約が米国本社によるもののため、短時間で複数のライセンスを準備したり、サポートを受けるのが容易でないという難点がありました。

## イベント運営機能をオールインワンで備えたクラウド型のSCSBを導入

そこにIBMから提案を受けたのが、SCSBです。SCSBはビジネス向けにコラボレーションやソーシャルの機能を提供するSaaS (Software as a Service)型のクラウド・サービスで、インターネットに接続されている環境があれば、いつでも、どこからでも、Web会議、インスタント・メッセージ、To Do管理など、社内外の関係者とのコミュニケーションを迅速に実現できるのが特長です。採用の決め手について、林氏は「クラウド・サービスならではの、必要なライセンスを簡単に調達して使い始められることはもちろん、手続きや実装方法等、日本IBMのサポートが得られることも短期イベントの開催に向けて安心材料となりました」と振り返ります。加えて評価したのが、煩雑な事務局業務の負荷を軽減できる点です。

「Webセミナーを開催するためには、動画配信を行う仕組みに加え、参加者の登録や管理を行う仕組みを別途用意しなければならないのですが、SCSBは導入や立ち上げに全く手間がかかりませんでした」。

SCSBは、インターネット経由で参加申し込みを受け付ける登録フォーム、アカウントやパスワードの自動発行、イベント当日のプレゼンテーション配信にいたるまで、Webセミナーの開催に必要な一連のイベント機能もオールインワンで揃えているのです。

また、第2回XPagesDayでは、3日間にわたって複数のセッション

## SCSB画面例：主催者側



左は、イベントの作成画面。必要項目を順に入力していけば、簡単に作成できる。右は、イベントのトップページ例。作成済みのイベントが一覧でき、管理しやすい。



を連続して実施することになったのですが、1つのセッションに時間超過が起こると、その“遅れ”が以降のセッション全体に波及してしまいます。この問題を回避するため、チームスタジオジャパンでは、SCSBの2つのアカウントを各セッションで交互に使い分けることで、前セッションの遅れに左右されることなく、次のセッションが定刻に開始できるようにしたいと考えました。

「そこまでいいのですが、実際に2つのアカウントをどのように各セッションと紐づけ、コントロールするのかといった具体的な手続きになると、わからないことが次々に出てきます。IBMは自らもWebセミナーを開催しているだけあって、私たちのやりたいことを親身になって汲み取り、的確なサポートを行ってくれました。



チームスタジオジャパン株式会社  
アカウント マネージャー  
草間 照幸氏

おかげで狙いどおりの仕組みをスムーズに作る事ができました」と林氏は話します。

林氏とともにイベントの運営にあたった同社アカウントマネージャーの草間照幸氏も、「使い方はとてもシンプルで、技術者でない私でも、一度レクチャーを受けただけで、システムの立ち上げからイベントの設定、当日の運営方法まで、全体の流れを簡単に理解できました」と話します。

そもそもXPagesDayの参加者は、日常的にIBM Notes/Dominoに接しているエンジニアが中心であり、同じIBM製品であるSCSBを利用しているユーザーも多数いると考えられます。イベント全体としての統一感を打ち出し、親しみやすい雰囲気を醸成するためにも、SCSBを活用することが最善という結論に至りました。

## SCSB画面例：参加者側



左は、参加申し込みをする際の登録画面。該当セミナーの基礎情報と登録に必要な項目がシンプルに表示される。  
右は、Webセミナーの画面例。プレゼンターと参加者の間で画面が共有される。

## 前回開催イベントと比べ参加者が一挙に増加

2013年11月6日～8日の3日間（Webセミナーは最初の2日間および最終日の半日間）にかけて開催された第2回XPagesDayには、前回は大幅に上回る約130名が参加しました。人気のあるセッションは、100名を超える盛況ぶりでした。

同社アカウントマネージャーの関澤弘人氏は、このように話します。

「北海道や九州といった地方からも気軽に参加していただくことができ、とても良かったと思います。仮にリアルセミナーに集まっていたとしても、100名以上を取容できる会場を短期間で確保するのは容易ではなく、加えて膨大なコストがかかります。その意味でもWebセミナーという方法を選んだことは正解でした。また、この取り組みを支えてくれたSCSBは視認性に優れたインターフェースを備えており、お客様にとってもわかりやすかったと思いますし、我々ホスト側にとっても非常に使いやすいツールでした」。



チームスタジオジャパン株式会社  
アカウント マネージャー  
関澤 弘人氏

さらに、草間照幸氏も次のように続けます。

「実は弊社で利用しているWebセミナー支援ツールでは、何らかのトラブルでシステム上でイベントが終了してしまった場合に、簡単な操作で“再開”ができないという不安がありました。新しくイベントを立ち上げ、そのWebリンクを改めて参加者全員にメールで送信するといった、煩雑な手続きが必要となるのです。これに対してSCSBでは、仮に講師側のWebブラウザがハングアップした場合でも、同じセッションにログインし直すことで迅速に“再開”

することができます。Webセミナーの当日にどんなトラブルが起こるか予想できないだけに、こうした高い可用性を持つSCSBは心強い存在でした」。

林氏も、遠隔地にいるスピーカーとリハーサルをする際にも、SCSBの操作画面はわかりやすく、簡単に作業を進めることができたと評価します。

## Webセミナーは“手づくり”イベントのROIを最大化する手段になる

まずは試しに実践してみようと開催したWebセミナーでしたが、チームスタジオジャパンはこの実績を足掛かりに、今後も多様なイベントを展開していく考えです。

「Webセミナーに対するユーザーの親密度はまだあまり高くありませんが、SCSBのようなツールを使えば、セミナーという形式に限らず、会議室やワークショップ、製品のデモンストレーションなどにも幅広く利用できます。バーチャルなイベントのため日程調整などもしやすく、例えばXPagesDayのフォローアップ・セミナーを開催したりといった実験的な企画も簡単にできます」と林氏は構想を膨らませます。

ただ、チームスタジオジャパンにとっての主要事業は、あくまでもIBM Notes/Dominoのアプリケーション開発およびその支援であり、啓蒙・マーケティング活動の一環に位置付けられているイベント業務に割くことができる予算や工数には限りがあります。「だからこそ、リアルな集会型のセミナーではなく、Webセミナーをもっと活用していこうと、社内の意識も変わってきました」と、関澤氏と草間氏。

「今回のXPagesDayを開催するためにかかった直接コストは、わずかに数万円程度です。仮に3日間にわたって会場を確保し、さらに、事務局業務や当日の運営業務を社外のイベント会社に依頼するとなると、とてもそんな金額で済むはずがありません。“手づくり”のイベントを、少人数で効率的にやっていたらなければならない私たちにとって、Webセミナーは最もROIを高められる手段になるのです」と林氏も話します。

Webセミナーにおける講師と聴講者の間の双方向コミュニケーションに討議の活性化や、参加者との一体感を感じられるイベントの運営を目指しています。と同時に、スマートフォンやタブレットなどのモバイルデバイス環境に対応した参加機会の拡大など、Webセミナーそのもののテクノロジーの進化も期待しています。同社は、今後も多様なコミュニケーション基盤のそれぞれの特性を活かしつつ、より効果的な実現方法を検討していく計画です。



### 日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

© Copyright IBM Japan, Ltd.2013

All Rights Reserved

12-13 Printed in Japan

IBM、IBMロゴ、ibm.com、Domino、およびNotesは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、[www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml)をご覧ください。他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

本資料に掲載されている情報は2013年12月のものです。事前の予告なしに変更する場合があります。

本事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は初掲載当時のものであり、閲覧される時点では変更されている可能性があることをご了承ください。

事例は特定のお客様での事例であり、すべてのお客様について同様の効果を実現することが可能なわけではありません。

製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはIBMビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。